

CAP式 教職員研修



おきなわCAPセンターは、子どもたちの安心・自信・自由の権利を守るために、暴力防止のための啓発講座を行っています。子どもが暴力から身を守るためには、子どもの人権を尊重して支援するおとなの存在が不可欠です。

子どもに関わるおとなに出来ることについて、CAPの理念や技術のつまった研修を開催しませんか。

暴力について知る・考える ワークショップ

基本テーマ

暴力についての誤った社会通念のもとで、暴力に対してお互いに話し合えない、話しても信じてもらえない、そしてお互いに助け合うという関係はなかなか生まれてきませんでした。その中で子どもは孤立させられ、暴力にあいやすいままにされていました。子どもが孤立する現状を減らすために、出来ることを、知っておくべきことが内容に含まれます。

- 子どもへの暴力とは？
- 人権意識を育む
- 子どもの力を引き出す関わり方
- 相談された時の話の聴き方 など

選択テーマ

●虐待に気づく

学校における虐待の早期発見と対応
子どもの性虐待、神話と事実 他

●いじめに気づく

いじめの四層構造への働きかけ
いじめの背景にあるもの 他

●しつけと体罰

体罰の問題点
体罰に替わるしつけの方法 他

その他にも内容いろいろ…学校ごとの研修ニーズにもお応えします（以下、研修例）

目指せチーム支援の充実！

学校運営に欠かせない、教職員の団結力。理念をふり返り、子ども達の未来を想像する中で、求められるチーム像について考えます。

ネットトラブル対応

ネット上で起こる、いじめや出会い系サイトなど、様々な問題に対し、対応方法を知り、支援の幅を広げることを目指します。

気持ちのワークショップ

子どもの問題行動の背景にはさまざまな気持ちがあります。ある気持ちについて理解し、寄り添う方法について考えます。

ジェンダーとLGBT

暴力の起こる背景にはゆがんだジェンダー（社会的文化的に作られた性差）感と社会的にも注目されているLGBTについての理解も深め、支援に活かします。

コミュニケーション講座

自分の要求や意見を相手の権利を侵害することなく、誠実に、率直に、対等に伝えるコミュニケーション法について考えます。

強み発見！

強みの言葉の書かれた「ストレスカード」を活用し、自分自身の強みや相手の強みを再発見することで、支援の新たなアプローチ方法に気づけます。

思春期理解とデートDV

心の変化の大きい思春期も子ども達が抱える問題について、また特別な関係の中で起こる暴力（デートDV）へつながらない支援方法を考えます。

解決志向アプローチ

子どもの気になる部分も、視点を変えることで、アプローチ方法も変わってきます。問題行動への対応の幅を広げることを目指します。

不審者対策 ウソ・ホント

子どもが怖い目に遭いそうな時、不審者のことを怖がらせずには？子どもの安心と勇気と自信を引き出し、自分の心とからだを守る方法を考えます。

暴力について知る・考えるワークショップ参加者からの感想

- ・暴力に対する意識や、体罰にならない子ども支援を再認識できた。
- ・子どもへの声かけや、支援する側の心のあり方など、考える機会となった。

その他のワークショップ参加者からの感想

- ・子ども達に男女区別せず、いろいろなことに経験させてあげたい。
(ジェンダーとLGBT参加者)
- ・自分気持ちを相手に伝えることの大切さとむずかしさを知った。
(コミュニケーション講座参加者)
- ・ストレスカードを、子ども支援でも活かしたい(強み発見参加者)



参加人数：制限なし *但し、内容によっては道具の都合上調整させていただく場合もあります。

費用：1ワークショップにつき20,000円+消費税

*離島及び遠隔地につきましては、別途交通費実費分を請求いたします。

申込み：先着順

*先着順に受付を行います。希望日に実施出来ないこともございますのであらかじめご了承ください

FAX専用申込フォーム(申し込み日： 年 月 日)

学校名	
担当者名	
担当者名ふりがな	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
実施希望内容	
実施希望日時(第1希望)	
実施希望日時(第2希望)	

お問い合わせ・お申し込みは・・・

おきなわCAPセンター 電話&FAX：098-862-1686 (平日10時～16時)

メール：yui@okinawa-cap.com



CAPとは…Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の頭文字をとったものです。わかりやすい言葉で人権概念を教え、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力などさまざまな暴力に対して何ができるかを、子ども、親、教職員、地域の人々に伝える人権教育プログラムです。